

協働的問題解決授業を実現する手立てについての事例研究

— 家庭科における授業デザインの提案 —

浦上 千歳 ・ 龍岡 寛幸 ・ 井長 洋 ・ 向井 紋子 ・ 山本 英美

1. 広島大学附属東雲中学校における授業デザインの視点

広島大学附属東雲中学校(以下,本校と略記)では,昨年度より「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造を研究テーマとし,研究を進めてきた。本校ではまず,グローバル時代をきりひらく資質・能力を,子どもの主体性・協働性・多様性の3つの特性から捉えることとして,「さまざまな文化や価値観を理解し,多様性を認め合いながら自分の考えを明確にして問題を解決する力」と定義した。次に,本年度の研究の目的を,グローバル時代をきりひらく資質・能力を育成するための協働的問題解決授業を実現する手立てを明らかにするために,授業デザインの視点を提案することにした。

平成 28 年度 6 月の授業研修会をもとに,前期に全教員が,日々の実践において協働的問題解決がうまく生じた授業の要因をあげた。それらを整理したものが表 1 である。

表 1 協働的問題解決を実現する授業デザインの視点 (平成 28 年度前期)

<p>I. 授業前の構想 に関する視点</p> <p>1 問題の設定</p> <p>① 身近な問いや切実感のある問い,社会や地域に貢献できる問題を学習題として設定すること</p> <p>② 1つの概念について,多様な考えが出せる問題を設定すること</p> <p>③ 問題解決の結果が複数存在するようなオープンエンドの問題を設定すること</p> <p>④ 導入時に,子どもが本時の課題を確認し合う活動を設定すること</p> <p>⑤ 個人の問題解決から,集団の問題解決へ変化させなければならない状況を設定すること</p> <p>2 学習方法</p> <p>① 自らの生活経験や既習の学習内容に基づく発言を数多く実現させること</p> <p>② 対話の前に考えをまとめる時間を十分とり,すべての子どもが考えをもてるようにすること</p> <p>③ 子どもの中から「なんで」「どうして」といった言葉を生み出させるようにすること</p> <p>④ 子どもたちの表現・活動を動画で撮影し,自分の表現・活動をメタ的に考察させること</p> <p>⑤ 問題解決に向けて多人数の前で考えを発表することを目的とすること</p> <p>⑥ 操作活動や実験を設定して自分の考えを伝えたいと思う意欲を高めさせること</p> <p>⑦ ジグソー学習法を用いること</p> <p>3 その他</p> <p>① 問題解決が何につながる知識なのかを意識させること</p> <p>② 問題解決の鍵となる考え方を繰り返し指導しておくこと</p> <p>③ 問題解決に向けた教師の働きかけを弱め,子どもの意見を重視すること</p> <p>④ 分かったつもりの状態をつくらないため,よく考えたグループの発表を最後にすること</p>
<p>II. 対話の仕方 に関する視点</p> <p>1 対話の視点</p> <p>① 1つの視点に焦点化した話し合いをさせること</p> <p>② 複数の考えの共通点を見つける対話をさせること</p> <p>③ 自分のもっている考えを基に,一段階抽象的な問題について対話させること</p> <p>④ 問題解決の評価の視点を子どもに与えておくこと</p> <p>⑤ 根拠とは何かを示し,根拠に基づいた対話をさせること</p> <p>⑥ 同じ体験や活動を基にすることで,同じ土台に立って対話させること</p>

2 対話の進行

- ① 対話を単なる考えの報告会にさせないこと
- ② グループ内のすべての子どもに自分の意見を述べさせること
- ③ グループ内で役割分担をさせないこと
- ④ 男子と女子に分かれた話し合いをさせないこと
- ⑤ 対話の時間を長すぎない程度の適切な長さに設定すること
- ⑥ 次の発話者に, 学習内容がつながる発話を数多く実現させること
- ⑦ 多面的な考えを発言する子どもの考えをもとに, グループ全体の思考を促進させること
- ⑧ よい考えを共有させること
- ⑨ 同意や提案ができるような, 建設的な対話にさせること
- ⑩ 付箋を活用して, 対話における考えのグルーピングの変化の過程を可視化させること

Ⅲ. 教師の介入 に関する視点

1 教師の基本的な姿勢

- ① 子どもの対話には積極的に介入せず, 見守ることを基本とすること
- ② 教師の介入は, 介入するポイントを限定すること
- ③ 教師の介入は, 子ども同士の意見を整理し, 次の方向性を示す程度にとどめること
- ④ 介入が必要なポイントには, 繰り返し介入し, 少しずつ介入の回数を減らしていくこと
- ⑤ 理由をたずねあっているグループには介入しないこと
- ⑥ よい対話の進め方をしているグループを褒め, 認め, そのよさを共有すること
- ⑦ 言葉だけでなく, 図・操作・動き・記号を対応させた説明を促すこと
- ⑧ 子どもの思いに寄り添い, 一緒に驚いたり喜んだりして, 子どもの考えを価値づけること
- ⑨ 子どもの考えが1つにまとまりそうなとき, 「でも, ○○と考えると…」と教師が反論して, 子どもの思考を揺さぶること
- ⑩ 問題解決の結果について, 「どうしてわかったの?」等と問い, 解決方法を自覚させること
- ⑪ 「○○くんは, …したんだって」等, 子ども同士の関わり合いを生む声かけを行うこと

2 意見がまとまらないグループに対して

- ① まず1つ暫定的な同意を得るようにさせること
- ② 対話の視点を確認すること
- ③ 子どもの思いや考え, 発言や活動の理由を尋ねること

Ⅳ. 各教科等の内容 に関する視点

- 1 国語 ①文章を読み返させること
- 2 社会 ①社会的な見方・考え方について話し合ってから, 対話させること
- 3 算数・数学 ①式の意味を明らかにするために連続した問いを生成させること
②式の意味を多面的に説明させること
③「いつでもその方法で解決できるか?」という視点で対話させること
- 4 理科 ①「いつでもその方法で解決できるか?」という視点で対話させること
② 子どもたち自身が考えた観察・実験をさせ, 興味・関心を高めること
- 5 英語 ① 談話の流れや文脈を考える, 行間を読む, 話者の意図を理解する等の単に読むだけでは理解できないような問いを設定すること

Ⅴ. 学習集団づくりの基盤 に関する視点

- ① 対話を日常的に行い, 子ども同士で認め合う雰囲気をつくること
- ② 相手の立場や思いをふまえたかわりをさせること
- ③ 失敗しても失敗したと言え自分の代わりに発言をお願いできる学級の雰囲気を作ること
- ④ 友達のよい考えをまねることができる雰囲気を作ること
- ⑤ 自分の考えについて意見を求め, 分からないことは分からないと言える雰囲気を作ること

2. 家庭科における授業デザインの視点

グローバル化や情報化等の変化が加速度を増す中で、子どもたちが生活を営むうえで、何を身につける必要があるのかを明確にすることは重要なことである。家庭科の授業を通して、生活者の立場から何ができるようになるか、という観点でこれからの家庭科の学びを考える必要がある。

家庭科では昨年度、発展途上国に住むモン族とのものづくりを介した交流を行い、その実践において子どもたちが協働的問題解決できるような学習をデザインしてきた。

本年度の研究の目的は、本校の総合的な学習の時間で取り組む SMART(修学旅行を活かした探究学習)と関連させた授業を構想し、協働的問題解決を実現する家庭科における授業デザインの視点を提案することである。

3. 授業の実践と考察

本節ではまず、第1学年の生徒に対して中学校の家庭科として初めて行われた授業を取りあげる。次に、その授業を本校研究部員が観察し、作成した資料を示す。



3-1. 家庭科の授業～自立について考える授業の一場面

協働的問題解決を生起させるための手立て

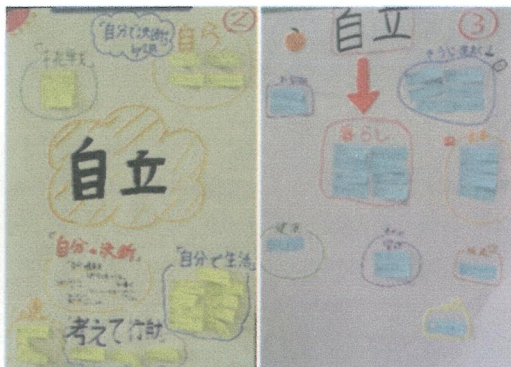
- 小学校の学習をふり返らせる場面を設定し、今の自分の状態をイメージしやすくさせる。
- 自立のイメージを付箋に書かせ、班でグルーピングさせる場面を設定し、意見交流しやすくする。
- 各班の発表を聞かせた後に自分の目標を書かせることで、自分の考えを明確にさせる。

日 時 平成 28 年 5 月 24 日 (火) 第 3・4 校時 (10:45~12:35)
 年 組 中学校第 1 学年 2 組 計 20 名 (男子 10 名, 女子 10 名)
 場 所 中学校家庭科教室
 単 元 ガイダンス

本時の目標 “自立” について理解し、自分の目標を設定することができる。

学習の展開

	学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
導入 (25分)	□小学校の学習をふり返る。	○小学校家庭科の4つの領域ごとに考えさせる。 ○中学校家庭科の4領域も示す。
展開① (45分)	□“自立”について考える。 (4人班) □“自立”のイメージをまとめる。	○1人に付箋5枚を渡し、イメージを書かせる。 ○付箋1枚に1つの内容を書くよう指示する。 ○模造紙に付箋を貼る。 ○グルーピングさせながら、グループごとにタイトルを書かせる。 ○発表の準備もするよう指示する。
展開② (30分)	(全体) □班ごとに発表する。 □“なりたい自分”を考え、家庭科を学ぶ上での自分の目標を設定する。	○付箋を読まないように呼びかける。 ○他の班の発表で気になった言葉をメモさせる。 ◆自分の理想とする自立した姿をイメージして、目標を設定できているか。



3-2. チームで作成した資料

取りあげる場面 「展開①」における 4 人班での意見交流

理由 他者と意見交流することで、本時の目標にせまる様相が見られたから

取りあげる対象 I-group (5名), II-group (5名)

理由 両班とも自らの考えをもとに交流し、自立についての深まりの違いが見られたから

表 2 協働的問題解決を実現する授業デザインの視点

<p>“自立”という生徒にとってわかりやすいテーマにしたことで、各個人が思いつくことを付箋に書くことができた。また、それを交流したことで意見を発言できない生徒がいなかったため、全体を通して発言数が多くなり、活発に話し合いが行われたと思われる。</p> <p>〔授業デザインの視点①〕各個人が何かしらの考えをもって話し合いができるテーマであること</p>
<p>他の人の意見の意味がわからないときに、「どういうこと？」や同意見に対する同調、「いいね。」のように意見を肯定する発言が随所に見られた。これらの発言によって、話し合い中の発言者以外に傾聴姿勢があったと判断でき、発言者が意見を言いやすい雰囲気できていたと思われる。</p> <p>〔授業デザインの視点②〕他者から出された意見を傾聴させ、出された意見を否定させないこと</p>
<p>授業記録の「182. E」から後の発言でドリームについての内容が出てきた。このキーワードは他の班には見られないことから、自立が将来の夢へつながると考えている生徒が存在していたと言える。これにより、他の班より多様性が生まれ、発展的に“自立”を定義できたと思われる。</p> <p>〔授業デザインの視点③〕テーマに対して多様性を生むような考えをもつ生徒が存在すること</p>

表 3 授業記録

I-group		II-group			
意見交流の前半・後半合わせて約 40 分の活動で、I-group では 831, II-group では 1107 の発話が得られた。その一部を以下に示す。(※Tは授業者を示す。)					
意見交流 [前半]					
17	T	はい、ちょっと交流です。はい、友達がどんなことを書いてるか、お互いに見せてもらって。	1	T	はい、ちょっと交流です。はい、友達がどんなことを書いてるか、お互いに見せてもらって。
18	A	全員違う。	2	D	ちよい待って、つなげれとん。何、それ。はい。
19	E	小さいけど、小さいけど大。	3	B	はい。
20	B	俺、がながんって書いてこう。	4	D	はい。
21	D	ふふふふ。	5	A	お金掛けとるね。どうする？
22	E	小さいけど大？	6	B	はい、モッチ。
23	D	ちゅうか、遅くって書いてく？	7	D	はい、が、モッチ、モッチ、モッチ。
24	A	こっちに名前書いてとくけえ。	8	A	俺から？
25	T	名前書いてかんでいいよ、別に。	9	T	はい、ちょっと交流してみましよう。ちょっと時間取ります。
26	B	いや、グループ。	10	A	えー、じゃあ、みんな一つずつ言っていこうや。
27	A	いや、グループごとに分けたいんで。	11	B	ええよ。
28	T	ああ、はいはい。はい。	12	D	ええよ。
29	E	1人暮らしができるって。	13	A	はい、自分で作ったものを食べる。
30	T	はい、ちょっと交流してみましよう。ちょっと時間取ります。	14	C	えっ？
31	E	「1人暮らし」と「親元離れる」、一緒だよ。	15	B	はい、オッケー。
32	A	俺もある、そんなやつ。もう一個あった。家族に頼らない。	16	C	食べることだったっけ。
33	E	人に頼らないがあるけえ、ほかの場所に入れとこうや。	17	D	はい。じゃあ次、いい？ 自分で決めて行動できる。
34	A	ああ。	18	B	俺、モッチと一緒に。
35	D	リュウセイ、何でも親に頼らない、ここか。	19	A	ねえ、自分で作ったのを食べたほうがいいね、やっぱり。
36	E	自らやりたいことに挑戦する。取りあえず分けとこう。	20	D	はい。じゃあ、ほ。
37	D	自分で考えて行動する。	21	C	自分で、自分で満足に食事が作れるって書いた。
38	B	みんな、そんなのなんじゃ。	22	D	あ、同じじゃ。
39	E	何事も自分でできる。	23	A	同じじゃん。同じようなもんじゃん。
40	D	自分で掃除ができるってことは家事ができるっていう。	24	D	同じじゃん。
41	B	あ、掃除？ 掃除？	25	T	いいよ、いいよ。大丈夫、大丈夫。
42	D	掃除と家事ができる。	26	E	自分のことは自分でできる。
43	E	掃除、じゃあ、これもそこに。	27	D	あ、じゃあ、同じ同じ。

44	D	あと1人暮らしができる。一人で何、一人で何かをやる？ 考えて行動する？
45	E	自らやりたいことに挑戦する。
46	D	じゃあ1人暮らし。
47	A	一人で何かをやるとうとする姿。
48	E	ああ。
49	B	ああ。ねえねえなんか、なんか、風呂掃除とかするのかね。
50	E	自分で考えて行動する。
51	B	そういうのなん？
52	E	だって、具体的に書くて書いてある。
53	D	質問力を高めるってどこ？
54	A	後ろ。
55	E	自分で考えて。
56	A	自分で考えてって、大人の立場で。
57	C	自分で調理できるってある？
58	A	社会で生きていける。
59	C	調理, 調理。
60	A	社会で生き、親元よね、社会で生きていく。
61	E	自分で考えて行動する、あ、これで、これ一緒にゃん。
62	B	そうなん？
63	E	一緒にゃん。自分で考えて行動する。
64	B	あ、そうか、そうか、そうか、そうか。
65	E	これは、これも一緒にゃん。
66	A	はい、これ、たぶん1人暮らしだと思う。社会の・・・。
67	D	決断力は？ 決断力。
68	C	家族の一員として働くとかは？ て、手伝い系というか。
69	E	で、これ。
70	D	決断力。これじゃない？
71	C	これこれ、そうだ、これだ。
72	A	一緒にだよね。
73	E	これ別だよね。
74	T	はい、交流しながら、先生まだ言ってなかったんだけど、 同じ、こうね、似たようなものを集めてるグループも、もうあ るようです。ちょっとじゃあ、そこまでいけたらやっごら ん。はい、これとこれは同じ意味かなというのを。
75	B	自分の夢をかなえ、意志を貫き通す。すごいこと考えるね。
76	A	これ何かね。
77	E	それは分かる、これじゃん。
78	B	あ、これこれ、これこれこれ。
79	D	決断力を高める。物の大切さを理解する。
80	E	決断力はまた別。
81	B	あ、また別か。あ、別、別、別。
82	E	物の大切さも別だよね。よし、できた。
83	D	できたー。
84	B	これは、これは？
85	D	ちょっと、もうちょっときれいに貼らない？
86	B	他人の意見を聞く、賛成、反対、難しい。あ、決断力。
87	C	これも決断力じゃない？
88	B	なんで？ そんなん、決断力じゃん、これ。
89	E	結局、一緒にゃんか。
90	C	自分の意見をしっかり、決断力でいい？
91	B	ああ、俺、これ、数書いとる。
92	D	ふふふ、これ一緒にゃん、ははは。
93	E	ふふふ、さん、3人、カガワ君、おるんかな。
94	A	しっかりと判断ができる、自分の意見をしっかり持つて。
95	E	はい。こ、交流をしましょう。
96	D	交流ー。
97	E	じゃあまず、こ、こっちから。向かって、自分から。
28	A	みんな食べること。
29	T	似たようなんでもいいよ。
30	D	自分で、はい。はい、次。
31	A	はい、掃除ができる。
32	B	掃除書いてない。
33	D	ないない、しゃあない。
34	E	ヒナリちゃん。
35	D	えっ、自分でお金を稼げるようになる。
36	C	おおー。
37	A	俺も同じこと書いとる。
38	C	現実的。
39	A	正式社員になるって書いとる。
40	D	同じ。
41	B	えっ、1人暮らしができる。
42	D	あ、出た出た出た。はい、自分も同じ。はい。
43	B	ちょっと待つて。し。
44	D	はい、はい、どこ？
45	C	自分は1人暮らしができる。1人暮らしができるレベル。
46	A	俺、ここがいい。
47	C	えっ、じゃけえ、まだ、まだ言ってないじゃん。
48	A	正式社員だったら給料上がるけえ。
49	B	いいんよ、別に。
50	C	言ってから貼れればいいじゃん。
51	D	えっ、1人暮らし。
52	B	いいよ、別に。
53	D	あ、いいん。
54	E	掃除、なんでも自分で・・・。
55	A	はい、洗濯ができる。
56	C	あ、自分も。洗濯ができる。
57	A	洗濯を毎日するでしょう？ で、それは詳しく。はい。
58	B	はい。
59	A	じゃあ次？
60	C	ミナミ、これ貼ったけえ、言わんでいいんよ1回。
61	D	オッキー。
62	B	何でも自分でできる。
63	T	はい、交流しながら、先生まだ言ってなかったんだけど、 同じ、こうね、似たようなものを集めてるグループも、もうあ るようです。ちょっとじゃあ、そこまでいけたらやっごら ん。はい、これとこれは同じ意味かなというのを。ちょっと 交流しながら。
64	C	これじゃない？ これじゃろう、これ、これ、これ、これ。こ れだって。
65	B	日本語が。
66	C	自分、洗濯ができる。
67	D	汚い、クラモト君。
68	E	栄養バランスを考えて料理を作ることにする？
69	C	うん、それだね。
70	D	はい、じゃあモッチー。
71	C	モッチー。
72	A	俺終わった。
73	D	えっ、親に頼らず生きていける。
74	C	すげー、すげー。もっちゃんの、これと同じだね。
75	T	すてきですね、全部が。
76	D	はい、言って。
77	C	はい。
78	A	洗濯一人で2枚出しとるけえ。俺やっば洗濯大切だわ。
79	B	ちょっと待つて。
80	C	えっ、全然、うん。・・・消さんでいいいけえ。

98	B	まあまあまあま, 待ち待ち待ち待ち。	81	E	うん。
99	E	自分から向かって右側から。	82	A	いいよ。
100	A	3, 4列目で出た意見は。	83	C	何を消しよるん。
101	E	じゃあ, はい。これは。	84	D	自分でね。
102	B	でも, 俺もうこんなだったら, じじばっかり。	85	T	別にいいよ, 消して書かんでも。あの, グループ, 同じものがなかったら, 一つのグループでいいんじゃないかえね。一枚だけでもね。
103	E	聞けや。これは, えっと, 人に頼らないっていうのは。	86	D	じゃけえ。
104	T	はい, じゃあ, 交流はちょっと終わったようかな。	87	B	あー, 日本語がおかしい。
			88	A	自分で言うね。自分でいいことか悪いことか判断できる。
			89	T	だいたい, み, いや, お互いにどんなことを書いてるかは分かった? それは大丈夫?
			90	C	自分の服の支度などが調節できる。なんつった?
			91	D	なんて?
			92	A	何?
			93	T	いい? じゃあ, はい, ちょっと全員前を向いて。ちょっと交流やめて, こっち向いてください。

意見交流 [後半]

175	A	自分です, 家事。自分で, 全部自分でじゃん。	290	T	うん? これはどう, どういう意味なん。
176	D	人の物を駄目にしてしまうかもしれん。黒でいいよ。	291	A	自立イコールみたいなの。
177	B	自分で生活。	292	B	イコール。
178	C	そう。あ, でも, 自分で生活が入るとる。	293	A	何か, イコールじゃないですか。
179	A	いいね。よし。	294	T	イコール?
180	C	これ。自分で生活だ, これ。絶対, 自分で生活じゃ。	295	D	イコール。
181	B	これ, 意思でいい? 意思でいい?	296	A	イコールというか, 同じこと。何か自立を何か言葉に何か。
182	E	ドリームってこれよね?	297	T	何か, これにふさわしい, 何か言葉, 考えてよ。
183	A	はあ?	298	A	自立。
184	B	ドリームカムトゥルー。	299	T	自立じゃ, それ言ったら, 全部これじゃない。それ言ったら全部こうなんだけど。
185	A	なんでドリームって書くん。	300	A	じゃあ, もう全部矢印でつなげる?
186	T	付箋, 付箋も入れていってよ, この紙の中にね。いい? こうやって。うん。	301	T	この, このお金, , で, 掃除, 洗濯でしょう。で, 食事, 同じような言い方したら, これは何かいい言い方はない?
187	B	やばくねえ? 付箋を。	302	A	自分。
188	T	この「自ら」はどれのタイトルなん? これ? じゃあ, これ, ここ貼ればいいじゃん。これを。	303	C	自分のこと。
189	A	えっ, これ, これ, こういうのにしたらどうなるんですか。	304	T	何かいい言い方はない?
190	T	えっ, どういうこと?	305	A	一人暮らしができるようになる, なることって何なん。
191	A	じゃけえ。	306	E	自分のこと? 結局ね。
192	T	あ, 全部書きだしてるっていうこと? いいよ, 書かんでいい, 書かんでいい, 時間ないけえ, そんな。たぶん時間, 間に合わないから, もうこうして貼ればいい, 貼ればいい, 貼ればいい。そのグループのものを貼ればいいよ。こうやって。うんうん。	307	T	うん, 結局何なん。そこそこ, いいね。うん。結局, 何ができることなんっていう。ちょっと考えてみ。そしたら, この辺で, なんかいタイトルが出てきそうじゃもん。
193	A	あ, そのほうが……	308	A	いいタイトルね。
194	T	かき出すと時間かかるでしょう?	309	D	うん。
195	A	確かに。	310	T	何かいい言葉が出てきそうだよ。
196	T	うん。そういう時間はいいから, しっかりタイトル考えて。	311	A	グッドタイトル, 出てこないよね。
197	A	はい。	312	D	うん。
198	T	それぞれの。	313	T	この, この一人暮らしっていうのをもうちょっと突き詰めて考えたらいい。
199	A	はい。俺のどれ? これ?	314	B	一人暮らしは何をする。
200	T	これはもう貼らんでいいけえ。	315	A	一人で暮らす。
201	B	はい。	316	E	自分のこと, 一人でできる。
202	T	書いたけえね。はい。	317	A	で, で, でしょうね。でしょうね, みたいなの。
203	C	で, 家族に頼らないってなるので。	318	C	俺の声, みんなに全然……ない。
204	A	これ誰? これ誰? 俺いっていい? 先。えーと, 自分で買い物ができる。自分で住まいを考える。	319	E	……ありがとう……。
205	B	自信を持って, 自信でいいかな。	320	C	何でそんな高い声, 出せるん。
206	A	あ, いいね。それいいわ。自信を持って。	321	A	ふふっ。録音しとることを忘れるという。
207	B	ねえ, いい?	322	C	なんだよ。
			323	B	さあ, どうする。
			324	A	ありのままの姿。

208	A	いいと思うよ。	325	C	え, 何, 何, ありのままの・・・。
209	B	僕, 自身でいいですか。	326	A	一人暮らしができるようになる。
210	E	べつに自分がいいと思ったらいんじゃないん。	327	B	あれ, 相当時代過ぎたよね。
211	B	リョウセイ, もう面倒だし生活でいい?	328	C	もう相当, 相当ね。
212	A	は?	329	D	もう2年ぐらい過ぎとる。
213	B	自分で。	330	A	そんな過ぎた?
214	A	生活, 自分で生活, 自分で生活。	331	D	2年よ。2014 年になった。
215	B	あ, 勇気でもいい?どっちでもいい?勇気と自信, 勇気。	332	A	うそつ。
			333	E	一人暮らしのできるレベル。
			334	C	俺が5年のころだったよ。
			335	A	え, うそつ。
			336	C	家事スキルみたいな。

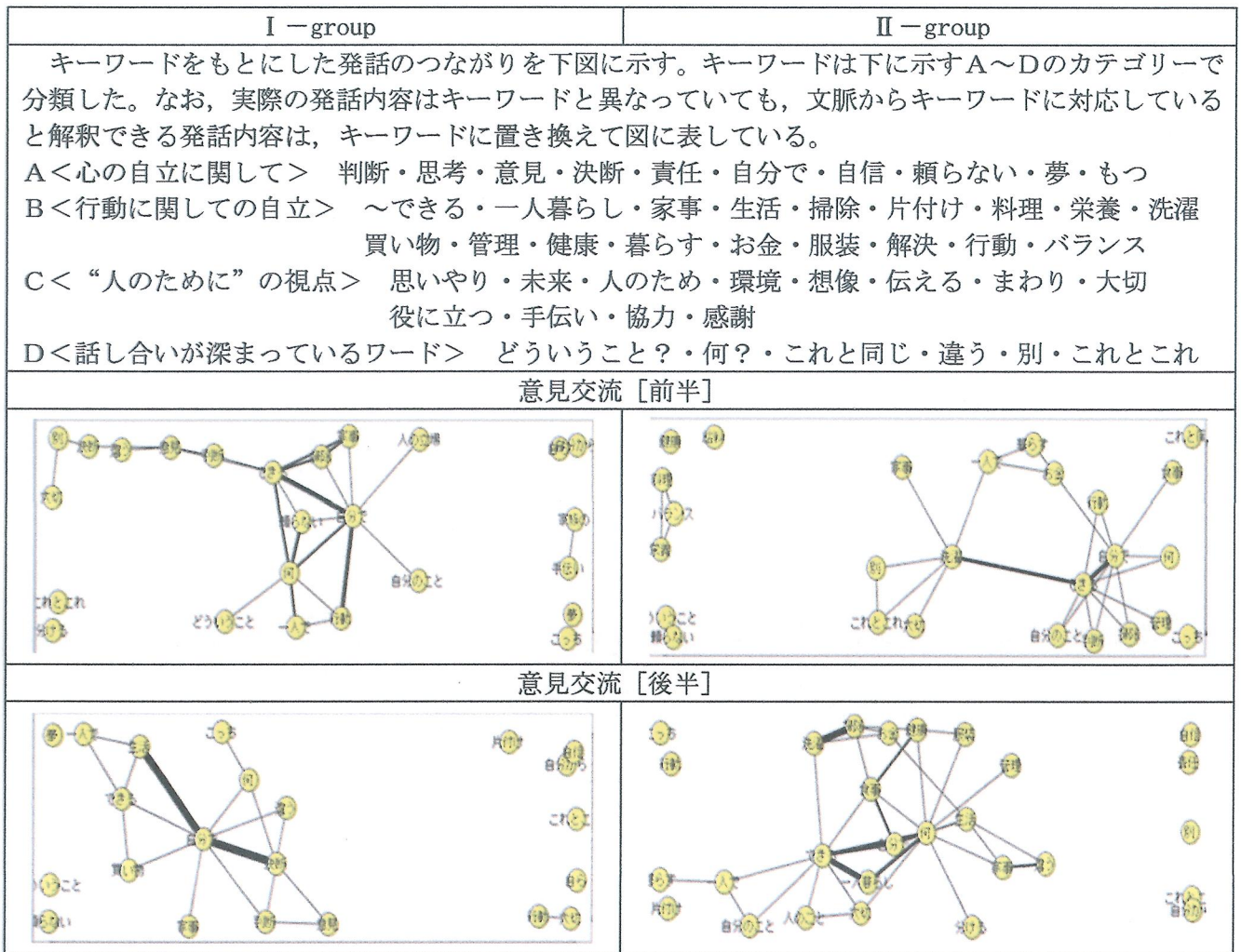


図1 発話のつながり

4. 所感と今後取り組んでみたいこと

生徒たちは小学校での学習事項やこれまでの生活体験をもとに「自立」に対してさまざまなキーワードに関する用語を使用していたので、その後の中学校での家庭科学習の意識を高めるのに、とても良い活動になったと感じる。

今後は、課題発見させる場面を、衣生活・住生活・食生活・消費生活の各視点に絞って行わせるとともに、課題解決したことを聴いてほしい対象者に発信できるような授業をしていきたい。この発信場面を大切にすることで、生徒たちの実践力を高めていきたい。

〔文責〕 2 節, 3 節, 4 節 … 浦上
1 節, 3 節 … 龍岡, 井長, 向井, 山本